

地震を起因とした大規模土砂災害(河道閉塞)に対し、岐阜県、本巣市、揖斐川町及び国土交通省等の各防災担当者の災害対応能力を向上及び各関係機関の連携強化をするため、合同防災訓練を実施しました。

今年度は、本巣市根尾地先を震源とする最大震度7の地震を起因とした大規模土砂災害による、根尾川の河道閉塞を想定した災害対応に関して、ワークショップ形式による、各防災担当者の意見交換を実施しました。

## ◎訓練の様子



ワークショップ形式によるグループ意見交換

- ◆実施日時: 令和6年10月29日(火)13:30~16:30
- ◆訓練方式: ワークショップ形式(対面、WEB併用)
- ◆参加機関・参加者数

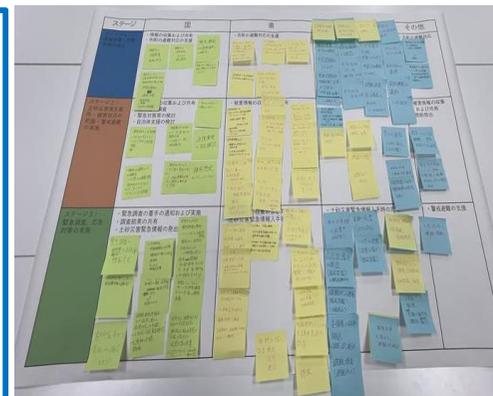
国土交通省 中部地方整備局、越美山系砂防事務所

岐阜県 県土整備部、岐阜土木事務所

市町 本巣市、揖斐川町

(WEB参加) (木曾川上流河川事務所、木曾川水系ダム統合管理事務所 横山ダム管理支所)、揖斐川町 振興事務所、岐阜県危機管理部、揖斐県事務所、揖斐土木事務所、水資源機構 徳山ダム管理所

合計12機関 参加者約60名



ステージごとに出された意見(付箋に記載)

- ステージ1: 情報収集・初動体制の確立
- ステージ2: 土砂災害発生箇所・被害状況の把握・警戒避難の実施
- ステージ3: 緊急調査・応急対策の実施。

## ◎講評 本巣市長

「天然ダムができるような大規模土砂災害時において、市だけでは対応できないため、速やかに国や県と連絡調整、情報交換を行うためには、平常時から顔の見える関係を築き、平日頃から気軽に話ができるようにコミュニケーションをとっていくことが大切である。」

## ◎各機関からの主な意見

- ・今回の訓練を通して、まずは各機関が情報共有をすることが大事だと感じた。【県】
- ・このような大規模災害を想定した訓練を経験したことがないので、とてもいい経験だった。各機関がどのように考えて行動しているか確認できてよかった。【市】
- ・国、県からいただいた情報を適切に、避難報道・避難物資の準備等を進めていかなければならないと改めて感じた。【市】
- ・災害が起きた時は、最初から災害対応の役割を決めつけることなく、地域の関係機関が一緒になって現地確認を行い、臨機応変的にその時にできる最大限のことを考えていきたい。【国】



本巣市 藤原市長 挨拶



過去の災害事例紹介